

## 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	商学部	身分	教授
氏名	久保 文克		
NAME	Fumikatsu Kubo		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記の通りご報告致します。

### 1. 研究課題

(和文) 戦前期台湾における改良製糖場の存続と農村経済

(英文) Survival of the Improved Sugar Mill and Modern Sugar Manufacturing Industry during the Japanese Colonial Period

### 2. 研究期間

年度 2023~2024 年度

### 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

(和文) まずは清朝期からの在来製糖場には付与されなかった原料採取区域が、甘蔗の圧搾工程のみを機械化した改良製糖場には付与された理由を一連の糖業関連規則とも関連付けつつ解明した。そして改良製糖場がなぜ存続したのかという最大の問い合わせに答えるべく生産・消費両面の存在意義を検討したが、生産面では新式製糖場の採取区域と隣接することで新式製糖場の原料調達を補完できたことが重要となった。また消費面では新式製糖場が産出する分蜜糖が内地向けだったのに対し、改良・旧式製糖場が産出した赤糖は農村を中心とした台湾人向けに消費され、生産・消費の二重構造の存在が日本統治期台湾の実態に他ならなかった。こうした改良製糖場も大きな転機を迎えた。統制経済への移行を意味する台湾糖業令の公布によって、圧搾工程のみの機械化だけでは採取区域が付与されなくなったのであり、新式製糖場に変更されるケースもあるなか最後まで改良製糖場の形態を維持したケースもあったが、前述した補完機能を果たせない地理的環境にあった上に改良製糖場の製造能力も低かったため、あえてコストをかけてまで機械化する意義が見出されなかつたからであった。

なお研究成果は以下によって発表される。「日本統治期台湾における改良糖廻の存続と近代製糖業—なぜ改良糖廻は存続したのか?—」(『商学論纂』第67巻5・6号掲載予定、脱稿)

(英文)

The reason why improved sugar mills in Japanese colonial Taiwan were survived was dual structure of both customer and production level. i.e. produced law level sugar for local Taiwanese consumers. At the same time enclave of raw material area was also resolved by one of improved mills which was granted legally.